

## 敵基地攻撃能力の先にあるのは

会社員

(鹿児島県 65)

開戦80年。ふと、また会ったことのない伯父のことを思い出す。伯父は1943年、タラワ環礁(現キリバス)で米軍との戦闘により命を落とした。私が生まれる前なので、写真でしかその顔を見たことはない。なぜ、鹿児島島の若者が日本から約5千キロ離れた南太平洋で命を落とすことになったのか。

1941年12月8日、真珠湾攻撃を開始した日本軍は同時にマレー半島コタバルに上陸し、戦闘を始めていた。そしてタイ、シンガポール、フィリピン、南洋諸島へ南進してい

く。その後、伯父は日本軍の一兵として命を落としたことになる。臨時国会の所信表明演説で、岸田文雄首相は「敵基地攻撃能力」の検討を明言した。歴代政権は「平生から他国を攻撃するような、攻撃的な脅威を与えるような兵器」の保有は憲法の趣旨ではないとしてきたはずだ。

敵基地攻撃能力とは文字通り、攻撃できる能力のことである。その攻撃能力を発揮した結果として私の伯父は他国との戦闘で命を落とした。敵基地攻撃能力の先にあるのは人間のいのちが失われるということ。そして、いのちを失うのはいつも若者であることを忘れてはいけない。